

◎東北地方道路改良宣傳中止

十月頃實行の豫定

本會の大正十三年度事業である、埼玉、栃木、福島、宮城青森、秋田及岩手の諸縣に於ける道路改良の宣傳は、關係府縣及關係地方新聞社の應援の下に、

十月八日浦和町を振出しに實行することになつて居たが、講演の任に當るべき顧問澁子爵が不幸病氣に罹られたのと、會長水野鍊太郎氏が豫定の講演日に出席出来ないのと、其の他の講演者で地方長官會議の爲、在京を餘義なくするもの等を生じ、

中止の已むを得ざることゝ爲つたが、十月頃更に計畫を定め實行する豫定である。之が準備の爲に尠ならず盡力を煩はした關係地方官及新聞社等に深謝し、併せて來るべき講演に

就いては更に一層の援助を賜はらむことを切望して已まない  
のである。

◎内務省道路課長更迭

内務省道路課長であつた、伊藤武彦氏が先般歐米各國に出

張を命ぜられたことは前號に報導したが、今回その後任として現庶務課長である丹羽七郎氏が兼任さるゝこととなつた。

新内務省道路課長丹羽七郎氏

丹羽氏は土木事務に關し多くの經驗を有する人である。大正七年東京府理事官から警保局事務官となり、警察事務を司掌されたが、四ヶ月足らずで内務書記官

となり、土木局河港課長の重職に就かれた、その當時の河港課は今の河川課と港灣課とを合併したものであつて、其の事務は土木局主管事務の過半を占めて居た、當時は發電用に供する水利使用事業が漸く盛になつた時で、水利權の問題が隨

分八ヶ間しいので、水法を制定するの急に迫られ、之が立案の任に當られた、又同八年十二月河港課が分離して河川課港灣課となるにつれ、港灣課長と爲り、先年制定された公有水面埋立法を立案し、更に港灣法の制定に當られた。水利法及港灣法は未だ制定の運に至らないのであるが、今日内務省の案として世間に公表されて居る水利法及港灣法は何れも氏の立案したものである。此の如く土木事務に多くの經驗を有する氏を迎へた我國路政界は幸福である、

道路課長任命の日に記者が庶務課長室に同氏を訪ふたが、氏は土木局には永らく世話になつて居るが、道路に關する知識經驗を有しない、是から諸君の指導を受けて、十分研究する積りであると、非常に謙遜な挨拶であつた、道路改良の問題は河川の改修やら港灣の改築と異つて、最近八ヶ間敷論議せらるに至つた問題で、之に關する政府の豫算も漸く大正八年度から認められた様な有様で新規事業を廢止すると言ふ現今では、大藏省が睨で居る豫算の一つであるから、之が豫算の維持には餘程の骨折ではあるが、港灣法やら水利法を制定されたときの意氣を以て、道路費豫算の維持は勿論之が増額にて付き、努力し我國路政の爲に一肌ぬいて貰いたいものである。

### ◎瀨田橋竣工式

滋賀縣知事の執行に係る、二號國道滋賀縣瀨田石山兩村立會瀨田川に架す瀨田橋架換工事は、大正九年起工以來銳意工程の進捗を圖り、曩に其の竣工を告げたので、七月八日午前十一時竣工式を舉行した、本會よりは會長代理として、都筑幹事出席左の祝辭を朗讀した、

### 祝 辭

二號國道瀨田橋改築工事茲ニ其ノ功ヲ竣ヘ本日ヲ以テ落成ノ式ヲ擧ケラル、ハ邦家ノ爲洵ニ欣幸ノ情ニ堪ヘス抑々本橋ハ帝國ノ幹線道路タルニ號國道ニ架セラレ其ノ創設極メテ古ク夙ニ天下ノ名橋トシテ稱セラル明治二十八年改築ニ係ル本橋ノ漸ク腐朽シテ高速度車輛ノ普及セル輓近交通ノ實情ニ伴ハサルニ至ルヤ縣當局ハ直ニ之カ改築ヲ計畫シ銳意工程ノ進捗ヲ圖リ今ヤ全ク其ノ功ヲ竣ハル橋態一新自然ノ美ト相對シテ風光更ニ一段ヲ加フルノミナラス其ノ構造ノ堅牢ハ交通ニ資補スル更ニ大ナルモノアラムトス、本會夙ニ全國道路ノ改良ヲ唱道シ其ノ促進ニ努ムル年アリ今ヤ各地ニ於テ改良ノ計畫ヲ樹ツルモノ多ク着々其ノ進メツ、アルノ秋本橋架設工事ノ完成ヲ見テ衷心ノ祝意禁

スル能ハサルモノアリ茲ニ竣功ノ盛式ニ際シ一言ヲ述ヘテ  
之ヲ祝シ併セテ今後益々之カ維持ニカメ以テ長ニ其ノ效果  
ヲ完フセラレムコトヲ望ム

大正十三年七月八日

道路改良會長 水野 鍊太郎

### ◎犀川大橋竣功式

石川縣知事の執行に係る、十二號國道石川縣金澤市内犀川  
に架す犀川大橋架設工事は、大正十一年起工し以來専ら工程  
の進捗を圖り、曩に其の竣功を告げたので、七月十日午後二  
時竣功式を舉行した、本會よりは、會長代理として、都筑 幹  
事出席し左の祝辭を朗讀した。

祝 辭

北越有數ノ橋梁トシテ兼六公園ト共ニ夙ニ其ノ名高キ犀川  
大橋ノ曩ニ大正十一年ノ出水ニ際シ流失ノ厄ニ遭フヤ爾來  
茲ニ二年有餘其ノ間縣當局竝縣民ノ協力ニ依リテ工事着々  
其ノ功ヲ進メ今仍チ其ノ竣功ヲ見ルニ至ル顧ミシハ本會創  
立以來一意全國道路ノ改良ヲ唱道シテ其ノ促進ヲ期スル茲  
ニ年アリ今ヤ各地共ニ其ノ必要ヲ認メテ着々其ノ歩ヲ進メ  
ツ、アルノ秋本橋架設ノ完成ヲ見ルハ邦家ノ爲洵ニ慶賀ニ

堪ヘス冀クハ今後更ニカテ之カ維持管理ニ致シ以テ長ヘニ  
其ノ效果ヲ收メラレムコトヲ一言ヲ述ヘテ祝辭トス、

大正十三年七月十日

道路改良會長 水野 鍊太郎

### 遅時きながらの交通調べ

東京市の統計課

道路改良計畫を樹立する上に於て、交通の情勢を調査することの  
極めて必要なことは今更言を俟たない所である。去る十二日の午後  
四時過ぎ、焼きつくやうな銀座尾張町の十字路で、東京市の統計課  
が交通状況を調査した想である。其の結果を聞いて見ると、平均一  
分間に同所を通過した者は、歩行者が百十二人七分、電車が十臺強、  
自動車十五臺、自轉車が三十七臺、人力車一臺、牛馬車八分、撒  
水車一臺と言ふ結果を得た。之を觀て直感するのは、舊時の交用  
具である人力車、牛馬車が極めて減少し、漸次交通用具の異常に増  
加して居ることを示して居ることが判るが、此交通物體の驚くべき  
進歩發達に應ずる丈の道路を築造し經營することが市民生活を阻  
滑ならしむる所以であるのに、之に應ずることが出来ず、今頃にな  
つて交通調査をして居るとは餘り時代の要求に遅れた仕事である。  
常に東京市の當局が御祭り騒ぎの仕事をするには抜目ないが地  
方が、五年も六年も前からやつて居る交通調査を、帝都ともあらう東  
京市が今頃になつて實行し交通物體の進歩に驚いて居るとは、今更  
以て沙汰の限りである。モト少し眞面目にやつて貰いたい。